家庭数

学校だより いなほ 稲穂

市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する そして共に幸せ～

学校教育目標
夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.14

令和４年９月３０日
校長　　蜂須賀　久幸

https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho

学校評価アンケートにたくさんのご意見をありがとうございました

ご意見すべてを全教職員で共有しました。感謝やお褒めのお言葉も頂戴しましたが、ここではそれらを省き、ご意見への回答をいたします。　※文章は多少変えてあります

【教育活動全般】

＊　登校時の荷物の多さ・重さは何とかならないか。タブレットの持ち帰りにより、もともと重かったランドセルがびっくりする重さである。手提げや水筒もある。万が一不審者に遭っても走って逃げられそうになく心配。教科書もノートも学校に置いて軽量化して、手提げの分もランドセルに入れて両手が空くようにしたい。

➡ 子供たちの荷物については複数のご意見がありました。使用する予定がないものは学校あるいは家に置いておけるよう、学校全体で共通認識のもと取り組みます。

＊　支援学級があるのに、ほぼインクルーシブ教育がないように思う。学校全体で様々な取り組みがあると、子供たちの障害者への概念が変わるのではないか。交流をしてもお客様感が拭えない。学校全体で考えてほしい。

➡ 支援学級だけの問題とせず、様々な態様を示す子供たちへの理解を深め、所属感や人権への配慮が行われるように努めます。校内外の研修も利用して、組織での対応を進めます。

【学校行事関係】

＊　オープンスクールの参観条件として、１家庭１名参観、家族内で交代する場合は校舎を出たことを確認してからという決まりがあったが、夫婦で教室内に入り参観をしている人を何人か見かけた。ルールを守っているものはよい気持ちがしないし、公平なルール作りをお願いしたい。

➡ 感染を防ぐために、施設の規模や児童数などに応じて各学校独自に工夫をしながら各種行事の開催に向けて努力しています。本校の教室の広さは、54㎡(第1校舎)～58㎡(第2校舎)です。1学級の児童数は24～36人ですから、一人の専有面積は 1.6～2.3 ㎡となります。つまり、畳1枚分程度しかありません。そこに、さらに大人が2名入ったことを想像してみてください。人との間隔を1～1.5mは確保したい中、厳しい状況であることをご理解いただき、適切な行動に頼らざるを得ないのです。

＊　運動会や授業参観の後に保護者アンケートを実施してもらえると嬉しい。例えば、運動会の徒競走を同じくらいの走力の子たちで競うのではなく、くじで決められた理由を知りたかった。同様に、保護者が参観したものに対してすぐにアンケートがあれば、疑問や心配事などが伝えやすいと思う。

➡ 簡易形式でも意見聴取に努めながら、課題抽出やその解決に生かしたいと考えます。

＊　運動会や参観等の学校行事を極力平日開催もしくは任意登校・参観が望ましい。習い事や家庭の事情により土曜日は出席できないこともあり、振替休業日も予定調整が難しい。

➡ 土曜日開催により、より多くの方に参観･参加いただけるものと考えますが、様々な家庭もあることを念頭に置きながら計画してまいります。

【学習・学力など】

＊　学力向上に関しては、学校運営協議会の議論よりも在校生の保護者からの広い意見と現場の先生が児童を見て判断したこととを軸として取り組みをしてほしい。

【安全・健康】

＊　校門は常に鍵がかかっておらず、誰でも入れそうで怖い。防犯カメラは常に起動して確認しているのか。大事な子供の命を預けているので検討してほしい。

➡ 児童登校後は、来校者の出入りを正門(赤門)だけに限定しています。3つの門扉の防犯カメラ映像は事務室で一括管理していますが、通常業務があるためモニターを常に監視することはできません。なお、校舎内侵入を防ぐために昇降口を開けっ放しにしないよう声を掛けあっています。

＊　体育館でドッジボールをするとき、マスクを外したいと先生に相談したら、「しゃべるからダメ」と言われたと聞く。コロナ罹患より熱中症のリスクのほうが高い。体育の授業や登下校時は外してもよいとガイドラインにもある。

➡ 熱中症対策で、登下校時や体育などではマスクを外してもよいと伝え、その場合の行動の仕方を指導しています。人によって指導内容が異なることのないように改めて確認をします。

＊　熱中症対策について、持ち込みなどに関する対応が早くて安心した。

【情報】

＊　コロナ対応で手紙等を兄弟やクラスメートが持ってきてくれることがないので、配付日に休むと配られたことすらわからないことがある。手紙類をＨＰからも確認できるようにしてほしい。

＊　学校行事などの案内が、毎回中途半端に発信される。情報の小出しで対応に困る。共働きで平日の昼間に都合をつけることがどれだけ困難か考えてほしい。職場の信頼も損なうことになる。

➡ 年度当初に「年間行事予定」を配付しました。また、学校だよりや学年だより等で早めの情報提供に努めていますが、実施日近くにならないと具体的なことを伝えられない場合もあります。なお、学年だよりもパスコードを設定してHPに掲載していきます。

【施設・設備】

＊　体育館の床のニス剥げ箇所がたくさんある。触ってけがをしないか心配である。

➡ 校舎内外の危険箇所の補修や修繕などに努めていますが、見逃している箇所にお気づきの時は教えてください。

【ＰＴＡ関係】

＊　他校では時代に合った活動をしようと、ＰＴＡの仕事を縮小していこうとしている。また、任期は２年で特典もある。実行委員会の集まりは年３回で、ＰＴＡ役員は音楽会や卒業式は必ず前の席が取れると聞く。

＊　登校時の旗当番の方がいないことがある。いつもいるようにしてほしい。当番がいても車を止めてくれないこともある。

➡ 誰もが・いつでも・どこでも活動できる、児童のために活動しやすい組織を目指したいと思います。改善のために前向きな提案をぜひお願いします。なお、旗当番の役割は車等を止めることより、児童の安全な横断・歩行のための声かけや見守り、そして挨拶ではないかと考えています。不明な点などがありましたら、PTA 役員までお問い合わせください。

それは、一通の手紙から始まった

平田小OBの星野道夫さん(故人)は、アラスカの手つかずの自然や動物、人々の暮らしを写真と文章で残した写真家です。その星野さんは、50年前に一枚の写真に出合い、アラスカにあこがれ、会ったこともないアラスカの村長さんに宛てて手紙を書いたのです。半年後にその村長さんから返事が届きました。このことがきっかけとなって、星野さんはアラスカに旅立ったのです。

今年が生誕70年となります。これを記念して記念切手発行の予定があるといいます。また、アラスカへの旅が一通の手紙から始まったこともあり、星野さんの母校で郵便局職員が、「手紙の授業」や「記念切手贈呈式」を行いたいと言ってくれています。詳しい計画がわかりましたら改めてお伝えします。

小学６年生の星野さん　卒業アルバム(1965.3)より ➡